

## 2022年9月卒業式式辞

中京大学で学び、本日、晴れてここに卒業式を迎えられた皆さんに対し、教職員を代表して心よりお祝いを申し上げます。また、今日までお子さまを支えてこられたご家族の方々の感慨もいかばかりかと存じます。謹んでお慶びを申し上げます。

中京大学は1954年（昭和29年）に中京短期大学として開学し、その2年後に四年制大学となりました。以来、68年にわたって数多くの卒業生を社会に送り出してまいりました。学部卒業生と大学院修了生は累計で既に14万人を超えています。皆さんは今後、さまざまな場所で先輩と出会い、言葉を交わす機会があろうかと思えます。ぜひ中京大学の同窓として絆を確かめ合い、ともに進んでいってほしいと期待致します。

さて、皆さんがこれから歩みだしていく社会は今、いくつかの困難に直面しています。もっとも気がかりなのは、やはりウクライナ問題です。ロシアの軍事侵攻が始まって既に半年が経過しました。現地の情勢は正確に把握しづらい面もありますが、何の罪もない大勢の人たちが突然、平穏な日常を奪われ、今も辛い思いの中でのことに変わりはありません。一刻も早く、確固たる停戦に向けた動きが実現するのを期待するばかりです。

われわれとしては、そうした現地の状況はもちろんですが、グローバルな政治や経済の面で計り知れない影響が及んでいることに対し、注意深く目を向けていかなければなりません。

アメリカやヨーロッパ各国を中心とする北大西洋条約機構（NATO）の陣営と、ロシアとの関係は今、1991年に東西冷戦が終結して以来の緊張の中にあります。さらに東アジアでは、ロシアと比較的近いとされる中国が、領土問題などで覇権主義的な動きを強めています。ヨーロッパと東アジアの相互で共鳴し合うように政治的分断が加速し、パワーバランスの不安定さが極度に高まっているように感じられます。各国の考え方や立場の違いを乗り越えて真のグローバリズムを築いていくことができるのか、人類の叡智が問われています。

経済的な側面では、小麦や原油、天然ガスなどの高騰を受けた世界的なインフレ、すなわち物価高が現実のものとなってきています。国内でも電気代の上昇が続き、食料やガソリンをはじめとする必需品の値上がりが相次いでいるところです。

ここで懸念されるのは、為替相場の急速な円安です。今月に入って1998年以来24年ぶりという円安水準での取引が続いていますが、かつてのように、円安だから輸出企業が潤って日本経済にプラスに作用する、といった単純な経済構造ではありません。円安によって輸入品価格がさらに押し上げられ、国民生活を

圧迫するという悪循環に陥らないよう、景気の先行きについては慎重に見極めていく必要があるでしょう。

もう一つの問題は、依然として猛威を振るう新型コロナウイルス感染症です。国内で最初の感染者が報告されたのは2020年1月のことでしたが、それから2年半余りが過ぎた今、国内の累計感染者は2000万人を超え、国民のほぼ6人に1人が感染した計算となりました。感染拡大が始まった当初に比べると重症化リスクが軽減されたとはいえ、日々の生活の安全・安心が脅かされていることに変わりはなく、引き続き、感染防止に一人ひとりの細心の注意が求められています。

こうした中で、ウィズ・コロナの生活様式も、徐々に当たり前のものになってきました。ビジネスの場ではオンライン会議が珍しくなくなり、テレワークもかなり定着してきたようです。スポーツやアートなど趣味の世界、あるいは余暇の過ごし方においても、オンラインやバーチャルが重視される傾向が着実に進んでいることは、皆さんも毎日の生活で実感されていることと思います。

ただその一方で、頭に留め置いておく必要があるのは、人間同士の直接のコミュニケーションは決してなくなならないし、なくしてはならないということです。オンラインやバーチャルが増えたからこそ、リアルな触れ合いの中からは生まれないものの大切さ、貴重さにあらためて気づく、という面も大いにあるのではないのでしょうか。IT技術はさらに発達し、AIの活用も加速するでしょうが、そうした意味での「人間らしさ」も置き去りにしない、バランスのとれた社会の構築が望まれているのではないかと考えます。

地球環境問題も忘れてはなりません。気候変動による豪雨や災害の多発、生態系の変化など、既にその影響は国内においてもはっきりと目に見え始めており、対策は待ったなしです。政府は2050年に温室効果ガスの排出をゼロにするとの方針を打ち出していますが、具体的にはどう取り組んでいくのか。早急に詰めていかねばなりません。

さまざまな難題を抱えつつ、社会は極めて重大な転換期に突入しています。日本の場合には人口減少の加速という要素も考慮していかなければなりません。歴史に学びつつ、その一方で、既存の枠組みにとらわれずに大胆に発想し、実行に移していく。今、社会で求められているのはそうした力ではないのでしょうか。

本学は、教育目標として「自ら考え、行動することのできる、しなやかな知識人の育成」を掲げています。先行きが見通しづらい今の時代だからこそ、そこをどう突き抜けて、新たな道をどのように切り拓いていくのか。本学を巣立っていく皆さんの、若く柔軟な感性に大いに期待したいと思います。

さて、梅村学園は来年、創立 100 周年を迎えます。中京大学は再来年の 2024 年が開学 70 周年にあたります。既に 100 周年を新たなスタートラインと位置付け、その先の 10 年間の方向を示す長期ビジョン「UMEMURA VISION 2033」を公表しておりますが、それを具体化するための新たな長期計画「NEXT10 2033」の策定に入っているところです。梅村学園・中京大学はこれからも、社会の課題を自らの問題としてとらえ、社会に貢献していくことのできる人材を送り出していけるよう、全力で取り組んでいく決意です。

皆さんは、卒業後もぜひ、歴史ある母校に思いを抱き、つながりを持ち続けていただくようお願いします。そして広い世界で多くの友人をつくり、学びを続け、さらに大きく飛躍して行ってください。校訓「真剣味」、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を胸に、チャレンジ精神と自信をもって、堂々と進んでいかれることを期待いたします。

本日はご卒業、誠におめでとうございます。

2022 年 9 月 20 日

中京大学長  
梅村 清英